

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査結果（概要）

1 調査の概要

(1) 実施日 平成31年4月18日（木）

(2) 対象

- ・小学校第6学年及び中学校第3学年の全児童生徒
- ・特別支援学校小学部第6学年及び中学部第3学年の該当児童生徒

(3) 調査の内容

○教科に関する調査（小学校：国語、算数・中学校：国語、数学、英語）

○生活環境や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒に対する調査（以下「児童生徒質問紙調査」）及び学校に対する調査（以下「学校質問紙調査」））

※昨年度からの変更点

- ・知識・活用を一体的に問う問題に変更（例：従来の国語A、国語Bが「国語」）
- ・中学校の調査に英語を追加（「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」の4技能を調査）

(4) 調査を実施した学校・児童生徒数（文部科学省4月11日付提供資料から）

| | 対象学校数 | 実施学校数 | 児童生徒数 |
|-----|-------|-------|---------|
| 小学校 | 351校 | 351校 | 15,725人 |
| 中学校 | 156校 | 156校 | 15,429人 |

※学校数には、義務教育学校、県立特別支援学校を含みます。

2 教科に関する調査

(1) 平均正答率

○5教科中3教科（小学校国語、算数、中学校数学）で全国の平均正答率を上回り、1教科（英語）で全国の平均正答率と同値になりました。（4/5教科で全国平均以上となったのは、調査開始以来初めてとなります。）

【小学校】

| 国語 | 算数 | 2教科合計 |
|------------|------------|-------------|
| 64.2(+0.4) | 66.7(+0.1) | 130.9(+0.5) |

【中学校】

| 国語 | 数学 | 2教科合計 | 英語(聞く・読む・書く) | 3教科合計 |
|------------|------------|-------------|--------------|-------------|
| 71.7(-1.1) | 60.3(+0.5) | 132.0(-0.6) | 56.0(±0.0) | 188.0(-0.6) |

※（ ）の数値は、全国の平均正答率との差を示します。

(2) 平均無解答率

○全教科（小学校国語、算数、中学校国語、数学、英語）で全国の平均無解答率を下回りました。（全教科で全国より良好な水準となったのは、調査開始以来初めてとなります。）

【小学校】

| 国語 | 算数 |
|-------------|-------------|
| 5.47(-0.74) | 2.49(-0.17) |

【中学校】

| 国語 | 数学 | 英語(聞く・読む・書く) |
|-------------|-------------|--------------|
| 2.57(-0.03) | 6.65(-0.66) | 5.44(-0.55) |

※（ ）の数値は、全国の平均無解答率との差を示します。

(3) 各教科の状況 (○：成果、●課題)

○経年的に出題されている問題について、改善が図られました。(正答率が全国平均を上回りました。)

●国語では記述式の問題の改善が図られていますが、算数・数学では説明をしたり、英語では自分の考えを書いたり等の記述式の問題に課題が見られます。

【国語】

○記述式の問題について、小学校では3問全て、中学校では3問中2問で全国平均を上回りました。

| | 問題の概要 | 出題形式 | 正答率 |
|-----|--|------|------------|
| | | | 本県(全国との差) |
| 小学校 | 【報告する文章】の空欄に当てはまるよう、調査結果から分かった二つのことをまとめる | 記述 | 30.1(+1.3) |
| | 文章を読み、 <u>疑問に思ったこと</u> に対する答えとして適切な内容をまとめる | 記述 | 77.7(+1.8) |
| | インタビューでの豊職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く | 記述 | 69.4(+1.2) |
| 中学校 | 短歌を一首選び、自分の考えや感想を書く | 記述 | 91.6(+0.4) |
| | 話し合いの方向をとらえ、自分の考えを書く | 記述 | 61.9(+1.5) |
| | 意見文の下書きに続くように、グラフから読み取れる情報を書く | 記述 | 77.2(-0.6) |

※網掛けの問題は【資料1 別紙】P5に詳しく掲載しています。

●小学校では、基礎的・基本的な知識・技能(同音異義語の漢字の書き、接続語を使って分けて書くこと)を問う問題に課題があります。

| | 問題の概要 | 出題形式 | 正答率 |
|-----|-------------------------------|------|------------|
| | | | 本県(全国との差) |
| 小学校 | 漢字を書く(調査の <u>たいしょう</u>) | 短答 | 43.7(+1.8) |
| | 漢字を書く(<u>かんしん</u> をもってもらいたい) | 短答 | 33.7(-1.9) |
| | 接続語を使って一文を二文に分ける | 短答 | 47.3(-0.5) |

●中学校では、書かれている内容を正確に読み取ることや日常生活に即した封筒の書き方、話し合いの内容をとらえる問題に課題があります。

| | 問題の概要 | 出題形式 | 正答率 |
|-----|--------------------------|------|------------|
| | | | 本県(全国との差) |
| 中学校 | 新聞に書かれている情報として正しいものを選択する | 選択 | 60.3(-1.2) |
| | 封筒の書き方 | 短答 | 53.4(-3.4) |
| | 話し合いの発言について説明したものを選ぶ | 選択 | 77.9(-2.5) |

※網掛けの問題は【資料1 別紙】P5に詳しく掲載しています。

【算数・数学】

○小中学校ともに、経年的に出題されている問題（何倍かを求める、 $6 + 0.5 \times 2$ の計算、三角形の合同条件を書く）について、正答率が全国平均を大きく上回りました。

| | 問題の概要 | 出題形式 | 今回の正答率 | 過去の正答率 |
|-----|---------------------------|------|------------|------------|
| | | | 本県(全国との差) | 本県(全国との差) |
| 小学校 | 棒グラフを読み取り、何倍かを求める | 短答 | 82.1(+3.5) | 80.9(-1.6) |
| | $6 + 0.5 \times 2$ の計算をする | 短答 | 66.0(+5.9) | 63.2(-3.4) |
| 中学校 | 証明で用いられている三角形の合同条件を書く | 短答 | 78.9(+3.1) | 78.4(+2.3) |

※網掛けの問題は【資料1 別紙】P6,7に詳しく掲載しています。

●小中学校ともに、文章や式を解釈し、説明する問題に課題があります。

| | 問題の概要 | 出題形式 | 正答率 |
|-----|---------------------------------------|------|------------|
| | | | 本県(全国との差) |
| 小学校 | 面積をどのように求めているかを、式を基に説明する | 記述 | 40.1(-3.8) |
| | 減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方を書く | 記述 | 29.6(-1.5) |
| 中学校 | 2つの冷蔵庫の総費用が等しくなる年数を求める方法を、式やグラフを用いて書く | 記述 | 37.7(+3.0) |
| | 計算の中にある $2n+4$ が、何を表しているかを選ぶ | 選択 | 69.2(-0.4) |

※網掛けの問題は【資料1 別紙】P7に詳しく掲載しています。

【英語】

○簡単な情報の聞き取りや読み取りの問題、基礎的な語句に関する問題の正答率は、多くの問題で高い正答率となりました。

| | 問題の概要 | 出題形式 | 正答率 |
|-----|-----------------------------------|------|------------|
| | | | 本県(全国との差) |
| 中学校 | 外国人の先生と生徒の会話の内容を表している絵を選択する | 選択 | 73.2(+0.9) |
| | 文中の空所に入る接続詞として、最も適切なものを選択する | 選択 | 81.2(+1.3) |
| | 与えられた英単語を適切な形に変えて、会話が成り立つように英文を書く | 短答 | 75.6(+2.0) |

※網掛けの問題は【資料1 別紙】P8に詳しく掲載しています。

●記述式の問題は、低い正答率となりました。また、無解答率が高いことにも課題があります。

| | 問題の概要 | 出題形式 | 正答率 | 無解答率 |
|-----|------------------------------------|------|------------|------------|
| | | | 本県(全国との差) | 本県(全国との差) |
| 中学校 | 来日する留学生に部活動についてのアドバイスを書く | 記述 | 7.0(-0.6) | 39.9(-2.4) |
| | 説明文とその前後の対話文を読み、対話文の空欄に当てはまる文を選択する | 選択 | 31.1(-1.7) | 1.0(0.0) |
| | 食糧問題について書かれた資料を読み、その問題に対する自分の考えを書く | 記述 | 9.9(-1.0) | 26.0(-1.9) |
| | 2つのピクトグラム案を比較し、どちらがよいか理由とともに意見を書く | 記述 | 1.8(0.0) | 7.4(-0.9) |

※網掛けの問題は【資料1 別紙】P9に詳しく掲載しています。

3 児童生徒質問紙調査・学校質問紙調査

(1) 自己肯定感、挑戦心、達成感に関する状況

○「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と肯定的に回答している子どもたちの割合が増加しています。

●「自分にはよいところがある」と肯定的に回答している子どもたちの割合が減少しています。

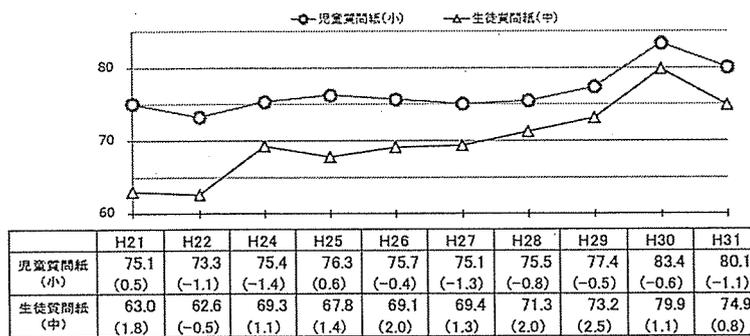
① 自分にはよいところがある

・小中学生ともに、肯定的な回答割合が昨年度より減少し、小学生は全国を下回る状況が続いています。

| | H28 | H29 | H30 | H31 |
|-----|------------|------------|------------|------------|
| 小学生 | 75.5(-0.8) | 77.4(-0.5) | 83.4(-0.6) | 80.1(-1.1) |
| 中学生 | 71.3(+2.0) | 73.2(+2.5) | 79.9(+1.1) | 74.9(+0.8) |

※数値は、肯定的な回答をした子どもの割合を示します。()の数値は、全国との差を示します。

* 過去10年間の推移



・過去10年間の推移を見ると、肯定的な回答割合は、増加傾向にあります。特に中学生は、全国を上回る状況が続いています。

② 先生は、あなたのよいところを認めてくれている

・小学生は、肯定的な回答割合が昨年度より増加し、小中学生ともに、H28以降全国を上回る状況が続いています。

| | H28 | H29 | H30 | H31 |
|-----|------------|------------|------------|------------|
| 小学生 | 83.8(+1.2) | 87.2(+1.2) | 86.4(+1.1) | 87.8(+1.7) |
| 中学生 | 79.6(+1.6) | 82.2(+1.8) | 84.2(+2.0) | 83.1(+1.6) |

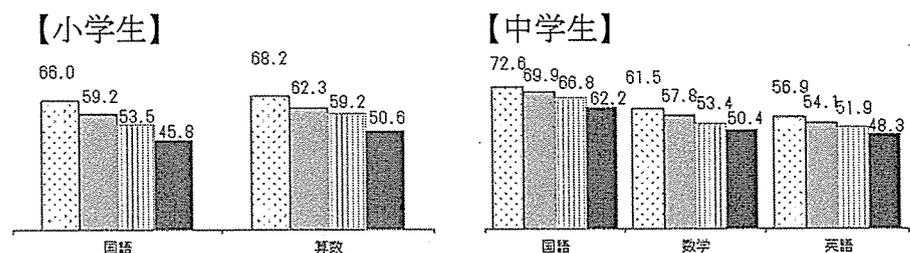
③ ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある

・小学生は、肯定的な回答割合が H28 以降増加しています。小中学生ともに、H28 以降全国を上回る状況が続いています。

| | H28 | H29 | H30 | H31 |
|-----|------------|------------|-----|------------|
| 小学生 | 94.9(+0.5) | 95.1(+0.3) | — | 95.3(+0.1) |
| 中学生 | 95.0(+0.7) | 95.5(+0.8) | — | 94.3(+0.4) |

教科に関する調査とのクロス集計
※右のグラフは、質問に対する回答別の平均正答率(H31年度)を示します。

※左から、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒の平均正答率を示します。



- ④ 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる

・中学生は、肯定的な回答割合が H28 以降増加しています。小中学生ともに、H28 以降全国を上回る状況が続いています。

| | H28 | H29 | H30 | H31 |
|-----|------------|------------|-----|------------|
| 小学生 | 87.8(+3.0) | 87.7(+2.6) | — | 94.2(+2.5) |
| 中学生 | 77.4(+3.3) | 79.3(+3.8) | — | 87.5(+2.9) |

- ⑤ 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している

・小学生は、肯定的な回答割合が H28 以降増加しています。中学生は、H28 以降全国を上回る状況が続いています。

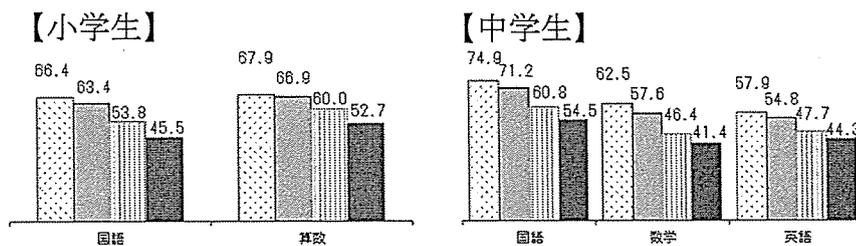
| | H28 | H29 | H30 | H31 |
|-----|------------|------------|-----|------------|
| 小学生 | 77.6(+1.5) | 78.1(+0.7) | — | 78.7(-0.3) |
| 中学生 | 70.8(+1.2) | 73.2(+2.2) | — | 70.7(+0.4) |

※ 規範意識

学校のきまり（規則）を守っている

・小中学生ともに、肯定的な回答割合が昨年度より増加しています。中学生は、H28 以降全国を上回る状況が続いています。

| | H28 | H29 | H30 | H31 |
|-----|------------|------------|------------|------------|
| 小学生 | 91.8(+0.3) | 92.8(+0.2) | 88.6(-0.9) | 92.0(-0.3) |
| 中学生 | 95.9(+1.2) | 96.5(+1.3) | 96.0(+0.9) | 96.9(+0.7) |



(2) 生活習慣・学習習慣・読書習慣に関する状況

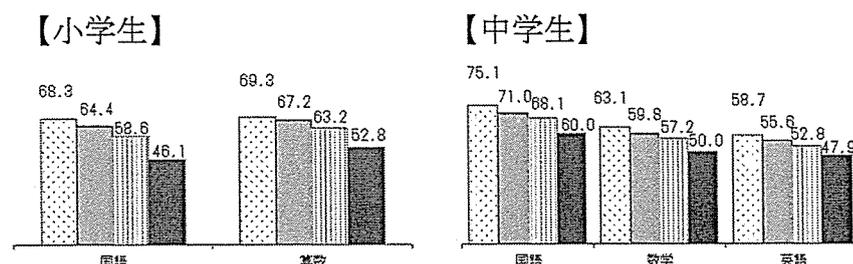
○平日の学習時間において、全国との差が昨年度より改善しています。

●授業時間以外の読書時間が、昨年度に比べて改善が図られていません。

① 家の人との対話

・中学生は、肯定的な回答割合が H28 以降増加しています。小中学生ともに H28 以降全国を下回る状況が続いています。

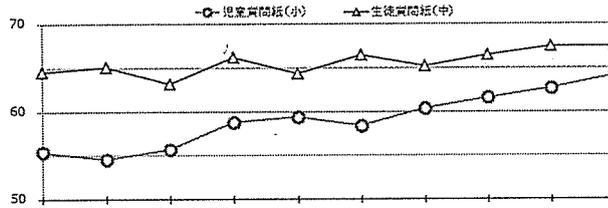
| | H28 | H29 | H30 | H31 |
|-----|------------|------------|------------|------------|
| 小学生 | 78.2(-1.0) | 77.6(-0.5) | 80.0(-0.5) | 76.6(-0.8) |
| 中学生 | 73.7(-0.4) | 74.0(-0.3) | 75.4(-0.6) | 76.0(-0.4) |



② 平日の学習時間（1時間以上）

- ・小中学生ともに、1時間以上学習する割合がH28以降増加傾向にあります、全国を下回る状況が続いています。

| | H28 | H29 | H30 | H31 |
|-----|------------|------------|------------|------------|
| 小学生 | 60.4(-2.1) | 61.6(-2.8) | 62.7(-3.5) | 64.2(-1.9) |
| 中学生 | 65.2(-2.7) | 66.5(-3.1) | 67.5(-3.1) | 67.5(-2.3) |



・過去10年間の推移を見ると、1時間以上学習する割合は、増加傾向にあります。

| | H21 | H22 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 |
|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 児童質問紙(小) | 55.4 (-1.8) | 54.6 (-3.6) | 55.7 (-3.8) | 58.8 (-4.4) | 59.4 (-2.6) | 58.4 (-4.3) | 60.4 (-2.1) | 61.6 (-2.8) | 62.7 (-3.5) | 64.2 (-1.9) |
| 生徒質問紙(中) | 64.6 (-0.7) | 65.1 (-1.1) | 63.2 (-3.2) | 66.2 (-2.4) | 64.4 (-3.5) | 66.5 (-2.5) | 65.2 (-2.7) | 66.5 (-3.1) | 67.5 (-3.1) | 67.5 (-2.3) |

③ 家庭での学習方法等を、具体例を挙げながら指導（学校質問紙）

- ・小学校では、肯定的な回答割合がH28以降増加しています。小中学校ともに、H29以降全国を上回る状況が続いています。

| | H28 | H29 | H30 | H31 |
|-----|------------|------------|------------|------------|
| 小学校 | 91.9(+0.0) | 93.8(+1.6) | 95.7(+2.4) | 96.3(+0.8) |
| 中学校 | 86.2(-1.6) | 92.3(+4.0) | 94.9(+4.7) | 92.9(+0.6) |

④ 授業時間以外の読書時間（平日10分以上）

- ・小中学生ともに、10分以上読書をする割合が昨年度より減少し、H28以降全国を下回る状況が続いています。

| | H28 | H29 | H30 | H31 |
|-----|------------|------------|------------|------------|
| 小学生 | 62.4(-1.1) | 61.8(-1.5) | 64.4(-1.8) | 63.9(-1.8) |
| 中学生 | 46.4(-3.3) | 47.7(-3.7) | 49.6(-3.9) | 45.5(-4.9) |

(3) カリキュラム・マネジメントに関する状況

○各質問に「よくしている」と回答した学校の割合が増加傾向にあります。
 ○各質問に「よくしている」と回答した学校とそれ以外の学校の平均正答率を比較すると、「よくしている」と回答した学校の方が高い傾向が見られます。

① 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している。(学校質問紙)

・小学校では、「よくしている」と回答した割合が昨年度より増加しましたが、H28以降全国を下回る状況が続いています。中学校では昨年度より減少し、全国を下回っています。

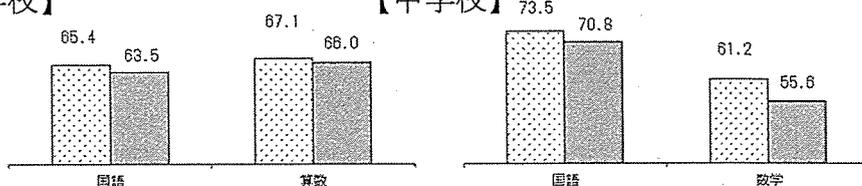
| | H28 | H29 | H30 | H31 |
|-----|------------|------------|------------|------------|
| 小学校 | 14.5(-4.9) | 17.1(-3.1) | 26.2(-6.7) | 27.8(-6.8) |
| 中学校 | 17.6(+1.8) | 14.6(-1.4) | 28.5(+0.8) | 25.3(-3.8) |

※数値は、「よくしている」と回答した学校の割合を示します。()の数値は、全国との差を示します。

教科に関する調査とのクロス集計
 ※右のグラフは、質問に対する回答別の平均正答率(H31年度)を示します。
 ※左が「よくしている」と回答した学校の平均正答率、右が「どちらかといえば、している」「あまりしていない」「まったくしていない」と回答した学校の平均正答率を示します。

【小学校】

【中学校】



② 教育課程表について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成している。(学校質問紙)

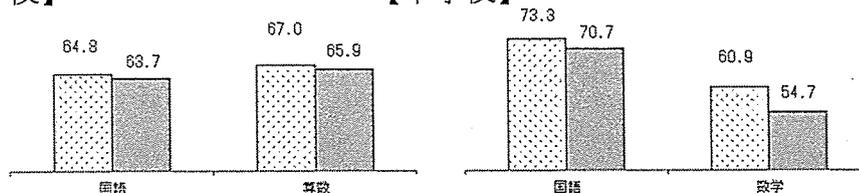
・小学校では、「よくしている」と回答した割合が昨年度より増加しましたが、H28以降全国を下回る状況が続いています。中学校は昨年度より減少し、全国を下回っています。

| | H28 | H29 | H30 | H31 |
|-----|------------|------------|------------|------------|
| 小学校 | 18.5(-6.0) | 18.8(-6.1) | 28.2(-7.9) | 31.8(-5.3) |
| 中学校 | 20.1(-0.7) | 19.7(-1.5) | 31.0(+0.3) | 29.2(-2.0) |

※数値は、「よくしている」と回答した学校の割合を示します。()の数値は、全国との差を示します。

【小学校】

【中学校】



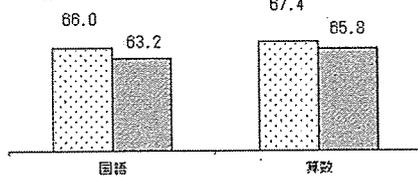
- ③ 子どもの姿や地域の現状等に関する調査や各種データに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。(学校質問紙)

・小中学校ともに、「よくしている」と回答した割合が昨年度より増加しましたが、H28以降全国を下回る状況が続いています。

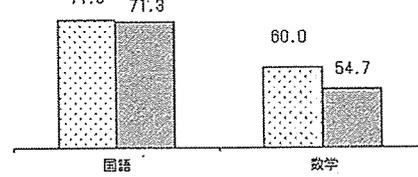
| | H28 | H29 | H30 | H31 |
|-----|------------|------------|------------|------------|
| 小学校 | 18.3(-7.9) | 20.2(-8.7) | 25.6(-9.2) | 30.4(-6.9) |
| 中学校 | 18.9(-4.3) | 18.5(-6.8) | 23.4(-7.3) | 31.8(-2.1) |

※数値は、「よくしている」と回答した学校の割合を示します。()の数値は、全国との差を示します。

【小学校】



【中学校】



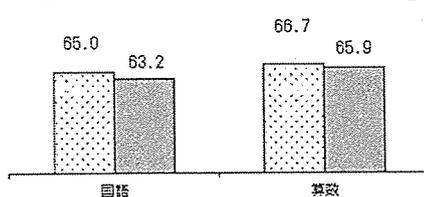
- ④ 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている。(学校質問紙)

・小中学校ともに、「よくしている」と回答した割合がH28以降増加しています。また、H30以降全国を上回る状況が続いています。

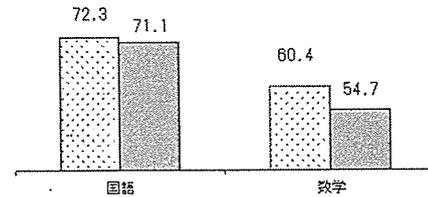
| | H28 | H29 | H30 | H31 |
|-----|------------|------------|------------|------------|
| 小学校 | 32.5(+0.8) | 34.0(-0.7) | 42.8(+1.1) | 49.0(+2.1) |
| 中学校 | 15.7(-0.6) | 15.9(-1.8) | 28.5(+2.4) | 31.2(+1.8) |

※数値は、「よくしている」と回答した学校の割合を示します。()の数値は、全国との差を示します。

【小学校】



【中学校】



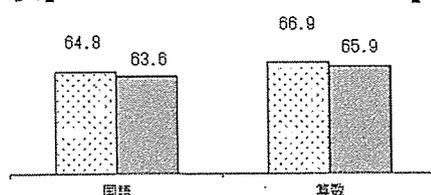
- ⑤ 言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる。(学校質問紙)

・小学校では、「よくしている」と回答した割合が昨年度より増加しましたが、H28以降全国を下回る状況が続いています。中学校では、昨年度より減少し、全国を大きく下回っています。

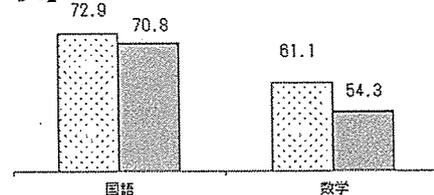
| | H28 | H29 | H30 | H31 |
|-----|-------------|------------|------------|-------------|
| 小学校 | 34.9(-1.4) | 34.3(-2.8) | 36.6(-2.5) | 39.3(-7.5) |
| 中学校 | 22.6(-10.2) | 26.8(-5.7) | 32.9(-2.0) | 31.8(-10.6) |

※数値は、「よくしている」と回答した学校の割合を示します。()の数値は、全国との差を示します。

【小学校】



【中学校】



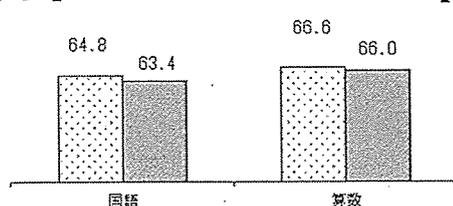
⑥ 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている。(学校質問紙)

・小中学校ともに、「よくしている」と回答した割合が昨年度より増加しましたが、中学校は全国を下回っています。

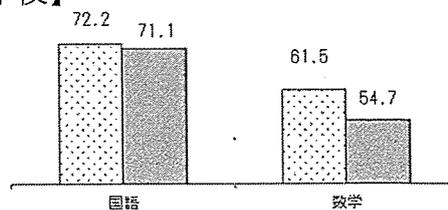
| | H28 | H29 | H30 | H31 |
|-----|------------|------------|------------|------------|
| 小学校 | 38.4(+3.7) | 38.5(+4.1) | 36.6(+0.7) | 46.1(+3.2) |
| 中学校 | 25.8(-1.8) | 32.5(+4.9) | 26.6(-3.0) | 31.2(-4.4) |

※数値は、「よくしている」と回答した学校の割合を示します。()の数値は、全国との差を示します。

【小学校】



【中学校】



<教科に関する調査との関連>

| | | 小学校 | | | 中学校 | | |
|---|-----------|------------|-----------|------|------------|-----------|------|
| | | 学校数 (校) | 平均正答率 (%) | | 学校数 (校) | 平均正答率 (%) | |
| | | | 国語 | 算数 | | 国語 | 数学 |
| ① | よくしていると回答 | 97 | 65.4 | 67.1 | 39 | 73.5 | 61.2 |
| | それ以外の回答 | 250 | 63.5 | 66.0 | 113 | 70.8 | 55.6 |
| ② | よくしていると回答 | 111 | 64.8 | 67.0 | 45 | 73.3 | 60.9 |
| | それ以外の回答 | 236 | 63.7 | 65.9 | 107 | 70.7 | 54.7 |
| ③ | よくしていると回答 | 106 | 66.0 | 67.4 | 49 | 71.8 | 60.0 |
| | それ以外の回答 | 241 | 63.2 | 65.8 | 103 | 71.3 | 54.7 |
| ④ | よくしていると回答 | 171 | 65.0 | 66.7 | 48 | 72.3 | 60.4 |
| | それ以外の回答 | 176 | 63.2 | 65.9 | 104 | 71.1 | 54.7 |
| ⑤ | よくしていると回答 | 137 | 64.8 | 66.9 | 48 | 72.9 | 61.1 |
| | それ以外の回答 | 210 | 63.6 | 65.9 | 104 | 70.8 | 54.3 |
| ⑥ | よくしていると回答 | 161 | 64.8 | 66.6 | 48 | 72.2 | 61.5 |
| | それ以外の回答 | 186 | 63.4 | 66.0 | 104 | 71.1 | 54.7 |

4 成果と課題

(1) 成果

○子どもたちが粘り強く最後まで取り組もうとする姿が育まれています。

*多くの大人の関わり、励ましや学校の「学習内容の理解と定着」を図る取組が、子どもたちに届き、子どもたちの「やる気」や「達成感」、「学習習慣の確立」等につながったと考えます。

【各教科の学力の状況】

- ・国語の記述式の問題について、無解答率が減少するとともに与えられた条件に合わせて書くことができるようになってきました。
- ・算数・数学の経年的課題（割合・図形）の中で、二つの数量の割合（何倍か）を求めること、三角形の合同条件を理解することができるようになってきました。
- ・英語では、簡単な情報の聞き取りや、基礎的な文法事項の理解ができています。

【これまでの県の取組】

○教育支援事務所による市町、学校の実情に即したオーダーメイドの支援

所管している全ての小中学校に対してオーダーメイドの支援を提供するため、各学校の重点取組や課題を把握し、校長との懇談や授業参観、研修会等における指導・助言等を通して、各学校の状況に応じた支援を計画的に進めました。

| 小学校 2教科平均 | 学校数 (H31) | 全国差 H29→H30 | 全国差 H30→H31 | 全国差 H29→H31 |
|--------------|--------------|----------------|----------------|----------------|
| 全体 | 347 | +0.2 | +1.2 | +1.4 |
| 教育支援事務所 | 81 | +0.3 | +1.9 | +2.2 |
| 教育支援事務所以外 | 266 | +0.2 | +1.0 | +1.2 |

| 中学校 2教科平均 | 学校数 (H31) | 全国差 H29→H30 | 全国差 H30→H31 | 全国差 H29→H31 |
|--------------|--------------|----------------|----------------|----------------|
| 全体 | 152 | -0.2 | +0.2 | 0.0 |
| 教育支援事務所 | 41 | +0.1 | +0.5 | +0.6 |
| 教育支援事務所以外 | 111 | -0.2 | +0.1 | -0.1 |

各教育支援事務所所管の学校とそれ以外の学校の平均正答率の全国差の推移を比較すると、教育支援事務所所管の学校の方がより改善されています。これまでの全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、市町の課題に応じた改善具体策を市町教育委員会と共有し、市町の学力向上検討会議等に参加し具体策を協議したり、学校訪問を実施し、学校の課題とそれに対応するための取組、子どもたちの学習内容の理解と定着の状況を把握したりしながら、学校の状況に応じた取組を支援してきたことが成果につながったと考えます。

○学校訪問による継続的な支援の取組

訪問校において「学習内容の理解と定着」を図る取組が確実に行われるよう、市町教育委員会と連携した継続的な学校訪問を通して、校長及び市町と学校の課題、具体的取組内容、取組スケジュールを共有するとともに、取組による子どもたちの変容について確認する取組を行いました。

| 小学校 2教科平均 | 学校数 | 全国差 H30→H31 |
|--------------|-----|----------------|
| 全体 | 347 | +1.2 |
| 訪問校 | 54 | +3.2 |
| 訪問校以外 | 293 | +0.6 |

| 中学校 2教科平均 | 学校数 | 全国差 H30→H31 |
|--------------|-----|----------------|
| 全体 | 152 | +0.2 |
| 訪問校 | 23 | +1.6 |
| 訪問校以外 | 129 | -0.3 |

訪問校とそれ以外の学校の平均正答率の全国差の推移を比較すると、訪問校の方がより改善されています。「学習内容の理解と定着を図るため、具体的にどのような取組を進めるのか」「その取組により子どもたちがどれだけできるようになったか」を学校・市町・県で継続的に確認したことが成果につながったと考えます。

○少人数指導の取組

効果的な少人数指導の実践的な研究を進めている「実践推進校」とそれ以外の学校の平均正答率の全国差の推移を比較すると、全ての研究教科において実践推進校の方がより改善されています。

| 小学校国語 | 学校数 | 全国差 H30→H31 |
|---------|-----|----------------|
| 全体 | 347 | +1.2 |
| 実践推進校 | 13 | +3.4 |
| 実践推進校以外 | 334 | +1.0 |

| 小学校算数 | 学校数 | 全国差 H30→H31 |
|---------|-----|----------------|
| 全体 | 347 | +1.1 |
| 実践推進校 | 48 | +1.3 |
| 実践推進校以外 | 299 | +1.0 |

| 中学校数学 | 学校数 | 全国差 H30→H31 |
|---------|-----|----------------|
| 全体 | 152 | +0.5 |
| 実践推進校 | 27 | +2.0 |
| 実践推進校以外 | 125 | +0.1 |

ティーム・ティーチングの役割分担において、指導者双方が明確な意図を持って指導にあたることや習熟度別少人数指導において、習熟の違いに応じてコースごとに指導を工夫することなどの取組が進められたことが成果につながったと考えられます。

○数学的思考力育成教材「Think!Think!」を活用した取組

「Think!Think!」を、昨年度の5年生を対象に週1回ずつ活用を進めた学校では、算数の平均正答率の全国差が4.0ポイント以上改善され、全国を上回る結果となりました。また、図形に関する設問の正答率が全国を大きく上回りました。

【参考】二つの合同な台形をずらしたり回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせてつくることのできる形を選ぶ。(全国差：+24.7)

○みえスタディ・チェックを活用した取組

昨年度第2回（1月実施）では、4月実施からの定着状況の確認や経年での比較検証ができるよう、これまで出題した問題や11月の学Vivaセットの問題を活用し、同一、同趣旨の問題で作成しました。そのことにより、各学校における子どもたちの「学習内容の理解と定着」の状況を確認する取組が進められました。

○育成カリキュラムを活用した取組

昨年度全小学校教員に配付した「わかる・できる育成カリキュラム」は44.3%の小学校において全教職員で、16.2%の小学校において学年（または教科）で共有して活用が進められました。主な活用場面は、授業の中、補充学習、家庭学習です。

【市町教育委員会における取組事例】

第2回みえスタディ・チェックの学校ごとの過去からの改善状況がわかる資料を活用して、所管する学校の設問ごとの状況を分析し、学校の状況に応じた支援が進められました。

○授業改善

全国学調やみえスタディ・チェックの自校採点結果を活用し、「できなかったことをできる」ようにするためには、どのような授業改善をしていけばよいかについて、各校の研修担当者が集まる会議で具体的に提案し、授業改善に生かすように働きかけました。

○「できなかったことをできる」ようにする取組

設問別に過去の自校の正答率との差などで比較検証し、課題の見られる設問について、子どもたちがつまづきを克服できるよう、関連するワークシートを授業、補充学習、家庭学習で活用することを各学校に伝えました。

【学校における取組事例】

子どもたちの状況に応じてワークシート等を計画的に活用するなど、「学習内容の理解と定着」を図る取組を行い、その取組による定着状況の把握が進められました。

○家庭・地域との協力による基礎・基本の定着（補充学習と家庭学習の連動）

各学年で既習内容の確認テストを行い、子どもたちのつまづき状況を把握して、その課題の克服に向け、地域ボランティアの協力を得て、毎週金曜日に全校体制で補充学習を実施し、つまづきに応じたワークシートを活用した週末の家庭学習を行いました。

○朝と昼の学習を活用した基礎・基本の定着

朝の学習と昼の学習を15分ずつ取り入れ、朝は読書、昼は漢字・計算に取り組みました。あわせて学校独自に漢字検定プリントを作成し、子どもたちの学習意欲を高めながら、基礎・基本の定着の徹底を図りました。

○学力の定着が十分でない子どもたちの学びを保証する少人数指導

指導教諭が少人数指導のコーディネーターとなり単元構想を考え、単元ごとの指導事項を担任と話し合います。その結果、どちらのコースでも同じねらいで授業を進めることが可能になります。

指導教諭は単元テストや総合学力調査等の分析結果をデータ化し、単元構想や、担任との話し合いのエビデンスにします。授業者がコースごとや学級ごとの課題、一人ひとりの子どものつまづきを継続して把握することができ、どの学年のどの単元をより時間をかけて指導するのか等、系統立てた指導やきめ細かな指導につなげています。

(2) 課題

① 学校の取組における課題

●学校では、校長のリーダーシップのもと、学習指導要領をふまえた授業改善の取組や、学習内容の理解と定着を図る取組が進められていますが、その取組が成果につながっていない学校もあります。

今後、どの学校においても、効果的で持続性のある取組となるよう「取組の見直し」と「取組の定着」を図る必要があります。

- ・全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックの結果から、これまで課題としてきた点については一定の改善が図られました。一方、過去に出題された同趣旨の問題、例えば $6+0.5\times 2$ の計算（全国学調）や 180° 以上の角の大きさを測る問題（みえスタディ・チェック）など基礎的・基本的な知識・技能の問題で、学校間で25ポイント以上の差があります。
- ・校長のリーダーシップのもと指導教諭や研修担当の教諭等の中核教員が中心とな

り、全校体制で「学習内容の理解と定着」を図る取組が年間を通じて計画的に進められている学校では、改善が進む傾向が見られます。一方、取組が進められているものの、年間の改善サイクルが確立していなかったり、一部の学年のみの取組にとどまっていたりする学校では、改善が進みにくい状況にあります。今後、課題を学校全体で共有し、各学年の授業改善に生かしたり、「子どもたちがどれだけできるようになったか」確認したりして定着につなげている学校の取組を広げていく必要があります。

② 経年的な課題における状況

●書かれている内容を読み解く力や、自分の考えを相手に分かりやすく伝える力に課題があります。特に、小学校では書かれている情報を把握すること、中学校では根拠を明確にして書くことに課題があります。

- ・小学校国語では、調査結果から分かった二つのことをまとめる問題では、正答率が全国を上回ったものの30.1%と低い結果となりました。中学校国語では、新聞に書かれている情報として正しいものを選択することに課題が見られました。
- ・小学校算数では、除法の計算の仕方を書く問題に課題が見られました。中学校数学では、2つの冷蔵庫の総費用が等しくなる年数を求める方法を、式やグラフを用いて書く問題では、正答率が全国を上回ったものの37.7%と低い結果となりました。
- ・国語では、書かれている内容を正確に読み取ることに、算数・数学では、文章や式を解釈し、説明する問題に課題があります。今後、文章を正しく読み解き伝える力を育むことが重要となります。

③ 中学校英語における課題

- ・中学校英語の2つの案の対比を通して、理由を明らかにしながら、自分の考えを書く問題では、正答率が1.8%、無解答率が7.4%とともに低い状況です。
- ・英語では、聞いたり読んだりした内容について、適切に自分の意見を書いたり、与えられたテーマに沿ってまとめた文章を書く問題に課題があります。
- ・中学校英語については、県平均が全国平均と同値であるものの、上記のような課題が明らかになってきたことから、今後、聞いたり読んだりして把握した内容について自分の考えを書く力等を育むため、内容の理解だけにとどまらず、内容に対する考えを英語で話したり書いたりできるようにする、英語によるコミュニケーション力を付ける指導が重要です。

④ 生活習慣・学習習慣における状況

- ・「学習習慣」については、本県の状況として改善が図られていますが、依然として全国平均を下回っていることや、「読書習慣」についても課題が見られることから、学習習慣・読書習慣の確立に向け、取組を進める必要があります。

5 令和元年度下半期の取組の方向性について

○どの学校においても、子どもたちや学校の状況を踏まえた「学習内容の理解と定着」を図る取組が持続性のある取組となるよう「取組の定着」を図ります。

<全小中学校への「取組の定着」のアプローチとして>

(1) 市町教育委員会との連携

○平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査や平成31年度第1回みえスタディ・チェックの改善状況を踏まえ、市町教育委員会と更なる連携を図ります。

① 市町教育委員会訪問

- ・市町教育委員会を訪問(9月、12月、2月)し、市町としての課題意識と具体的取組方策とその進捗、子どもたちの学習内容の理解と定着の状況を共有します。
- ・各市町教育委員会所管の小中学校の「学習内容の理解と定着」を図る取組の状況について共有します。また、その取組状況に応じ、今後、市町教育委員会としてどのように支援していくかを協議します。

② 学力向上推進会議(市町指導主事対象)を開催(8月下旬、2月中旬)

- ・【8月】課題と改善方策、年度後半の取組スケジュールを確認します。
- ・【2月】下半期の取組の進捗状況と第2回みえスタディ・チェックの結果に見られる子どもたちの学習内容の理解と定着状況を確認します。また年度末、年度初めの対応を確認します。

③ 市町教育長会における学力向上の取組の協議(10月~11月)

- ・市町の学力向上に向けた取組や子どもたちの「学習内容の理解と定着」を図る取組について協議します。

④ 市町教育委員会主催の研修会等における説明

- ・市町教育委員会主催の学力向上に係る会議や各学校の教員を対象とした研修会に、要請に応じて県教育委員会の指導主事等が参加し、取組内容等について説明します。

(2) 小中校長会との連携による、「学習内容の理解と定着」を図る取組の浸透

- ・校長役員会・代表者会、学力向上部会において、学力向上に向けた取組や子どもたちの「学習内容の理解と定着」を図る取組について協議し、具体の取組を進めます。

(3) 教員研修による「学力向上の取組の理解と活用」についての教員への周知

- ・新任管理職が増加する中、新任管理職研修に授業改善のマネジメント、教員の授業力向上に向けた指導助言方法などを取り入れます。
- ・若手教員も増加しており、めあて・振り返りの効果的な実施、子どもたちの課題に対応した授業づくり、教材の活用など、授業改善に向けたより実践的な取組を位置付けます。
- ・国の調査官を招へいた授業改善研修会(小学校国語・算数・理科、中学校国語・数学)を開催し、新学習指導要領に基づいた授業改善の視点や、効果的な少人数指導のあり方について学び、授業の質的向上を図ります。

(4) 経年的な課題の改善に向けた取組

・「わかる・できる育成カリキュラム（読み解く力・伝える力編）」の提供

文章を読み解く力の育成に向け、各学年の系統性を意識し、より効果的な指導が行えるよう、指導のポイント、たしかめプリントで構成した指導資料（「わかる・できる育成カリキュラム（読み解く力・伝える力編）」）を全小中学校に提供します。

・学 Viva セット（ワークシート）の提供

分析結果を踏まえ、課題に対する子どもたちの理解と定着状況が確認できるよう、当該学年で身に付けておくべき基礎からの標準的な問題を集めた学 Viva セットを全小中学校に提供します。

(5) みえスタディ・チェックによる改善状況の確認

- ・1月実施分において、4月実施や過去の問題と同一、同趣旨の問題を出題し、学校の改善状況を分析します。改善が図られていない学校を所管する市町教育委員会と連携しながら、年度内に「できなかったところをできる」ようにする取組を確実に実施するよう支援します。

(6) 好事例の横展開

- ・各学校が学校の課題や取組テーマに合わせて活用しやすいよう、「割合・図形における組織的な取組」「朝の学習における個々の子どもの状況に応じた支援」「基礎・基本を定着させる家庭学習」などテーマごとの好事例を分析報告書（10月）で紹介し、横展開を図ります。

(7) 中学校英語における取組

- ・全国学力・学習状況調査の結果を受け、課題の見られた設問について指導のポイント・授業改善の取組を解説した資料及び課題に対応したワークシート（学 Viva セット）を作成し、中学校に提供するとともに活用を促します。
- ・工夫した指導等の先進的な取組事例を分析報告書で紹介し、横展開を図ります。
- ・大学教授を招へいした研修（8月に県内4会場にて開催）を行います。
- ・英語の目標を具体化した学習到達目標である「CAN-DO リスト」を4技能（5領域）に更新するよう各中学校等へ依頼するとともに、その活用を促します。
- ・授業改善のポイントを記載した資料について、各種研修での一層の活用を進めます。
- ・全中学校から1名参加の研修講座で指導と評価方法についての研修や、各地域の実情に応じた英語地域強化研修（15ブロック）、言語活動のさらなる充実を図るための公開授業等を実施します。

＜市町教育委員会と連携して継続的に支援する学校、教育支援事務所所管の学校及び実践推進校への「取組の定着」のアプローチとして＞

(1) 市町教育委員会と連携した学校支援

- 学校の課題認識とそれに対応するための取組（学校組織全体として行う「学習内容の理解と定着」を図る取組）を学校・市町教育委員会・県教育委員会で共有し、学

校の取組や子どもたちの「学習内容の理解と定着」の状況を把握しつつ、学校の取組を支援していきます。

- ・支援にあたっては、児童生徒や学校の状況に応じてよりきめ細かく支援できるよう、平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査や平成 31 年度第 1 回みえスタディ・チェックの改善状況を踏まえ、市町教育委員会と協議し、支援校（県内 30 校程度）を選定します。
- ・学校訪問（9 月、2 月、翌年 5 月）では、校長や学力向上の取組を推進する担当教員等との懇談、授業参観及び授業に対する指導助言を行います。また、学校の要望に応じて校内研修等に参加し、「学習内容の理解と定着」を図る取組について説明します。
- ・校長や学力向上の取組を推進する担当教員等との懇談では、学校としての課題認識とそれに対応するための今後の具体的取組内容、取組スケジュールを共有（9 月）します。以降の訪問では、取組状況や「学習内容の理解と定着」の状況を確認し、必要に応じて具体的取組内容の見直しを行います。

（2）教育支援事務所所管の学校及び実践推進校への支援

- 学校の課題認識とそれに対応するための取組（学校組織全体として行う「学習内容の理解と定着」を図る取組）を学校・県教育委員会で共有し、学校の取組や子どもたちの学習内容の理解と定着の状況を把握しつつ、学校の取組を支援していきます。
 - ・通常の学校訪問と連動させて、（1）の学校訪問と同内容の支援を実施します。